自己評価票

地域密着型サービス自己評価項目

（評価項目の構成）

Ⅰ.理念に基づく運営
1. 理念の共有
2. 地域との支えあい
3. 理念を実践するための制度の理解と活用
4. 理念を実践するための体制
5. 人材の育成と支援

Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援

Ⅲ.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント
1. 一人ひとりの把握
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し
3. 多機能性を活かした柔軟な支援
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働

Ⅳ.その人らしい暮らしを続けるための日々の支援
1. その人らしい暮らしの支援
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり

Ⅴ. サービスの成果に関する項目

【記入方法】
- 複数のユニットを持つ認知症対応型共同生活介護事業所の場合、各ユニットごとに、管理者が介護職員と協議の上記入してください。
- 次の項目は、小規模多機能居宅介護事業所のみ記入してください。
  - 項目番号23　〇初期に築く本人との信頼関係
  - 項目番号24　〇初期に築く家族との信頼関係
  - 項目番号25　〇初期対応の見極めと支援
  - 項目番号26　〇馴染みながらのサービス利用
  - 項目番号39　〇事業所の多機能性を活かした支援
- 次の項目は、認知症対応型共同生活介護事業所のみ記入してください。
  - 項目番号53　〇身だしなみやおしゃれの支援
  - 項目番号59　〇役割、楽しみごと、気晴らしの支援
  - 項目番号60　〇お金の所持や使うことの支援
  - 項目番号61　〇日常的な外出支援
  - 項目番号62　〇普段行けない場所への外出支援
  - 項目番号63　〇電話や手紙の支援
  - 項目番号64　〇家族や馴染みの人の訪問

【用語について】
- 管理者＝指定事業者としての届出上の管理者とする。「管理者」には、管理者不在の場合にこれを補佐する者を含む。
- 職員＝「職員」には、管理者及び非常勤職員を含む。

事業所名	グループホーム　天神
（ユニット名）	1階
記入者（管理者）氏　名	藤戸　末子
評価完了日	平成19年　7月20日

自己評価票

項　　目		取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	○印 （取組んでいきたい項目）	取り組んでいきたい内容 （すでに取組んでいることも含む）
Ⅰ．理念に基づく運営				
1．理念と共有				
1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	ホームの理念は法人の理念を踏まえてスタッフ全員で作り上げたが、介護保険改正にともない地域密着型サービスとしての理念の内容を目指したホーム独自の理念を現在スタッフ全員で検討中である。	○	ホームの地域における意義を踏まえつつ、新しい理念を作りあげる。
2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	申し送り時に日々心構えとして法人の理念、ホームの理念を念頭にケアにあたることを申し合わせている。		
3	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にした理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる	運営推進会議や「天神だより」でホームを知っていただくことに努めているが、理念の構築は検討課題となっている。	○	早期に地域密着型サービスの基本方針に添った理念を構築し、地域にわかりやすく伝えていきたい。
2．地域との支えあい				
4	○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	地域のボランティアの方々が毎月おいで下さり、地域の方と利用者が共に日舞を鑑賞したり、避難訓練に参加して頂いている。	○	開かれたホームとして近隣の方々が気軽に立ち寄って頂けるように今後も努めたい。
5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域清掃や老人会の催しに利用者やスタッフが共に参加し交流に努めている。		

項　目		取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	○印 （取組んでいきたい項目）	取り組んでいきたい内容 （すでに取組んでいることも含む）
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	「天神だより」を通して認知症の様々な周辺症状への理解を深めて頂けるように広報活動に努めている。	○	今後も認知症への理解を更に深めてもらえるよう、広報活動に取り組んでいきたい。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	毎年の自己評価でケアの振り返りを行うと共に、サービス評価をうけることによって新しい視点でのアドバイスを参考に改善を進めている。		
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	当ホームの運営推進会議では活発に意見交換され、出された意見は所長、スタッフとも真摯にうけとめ日々サービス向上の取り組みを行なっている。		
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	福祉事務所、生活環境課、国民保健課等、関連部署との連携を常に心がけ実施している。		
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	所長は権利擁護に関する制度に対する理解を十分に持ち、スタッフに資料を渡したり、学ぶ機会を持つようにしている。	○	継続的に学習の機会を確保し、職員全員が理解を深め、活用できるように支援体制を整えていきたい。
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	虐待防止のマニュアルがあり、全スタッフに周知されている。		

項　　目		取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	○印 （取組んでいきたい項目）	取り組んでいきたい内容 （すでに取組んでいることも含む）
4. 理念を実践するための体制				
12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居時に十分時間をとり丁寧に説明を行なっている。又、疑問点に対しても納得して頂けるように説明している。		
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議に利用者代表の方が参加しており、毎回意見や要望を述べていただき、それらの意見が運営に反映されている。		
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	ご家族の来訪時に利用者の普段の暮らしぶりをお伝えしている。又、月１回ご家族へ近況報告と現金出納帳、通院記録をコピーして送付している。		
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議でご家族代表の方に、十分意見を述べて頂けるように働きかけている。又、契約時にホーム外にも苦情相談窓口があることを説明している。ご家族来訪時にはできるだけ所長が話し合う機会をもてるように努めている。		
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月１回のスタッフ会議時にスタッフ全員が意見を述べる機会を設けている。又、折りに触れてスタッフの提案は運営に反映させている。		
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	予定外の状況に対しては常に緊急連絡網により、スタッフが駆けつけられるように申し合わせ事項ができており、実施されている。		

項　目		取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	○印 （取組んでいきたい項目）	取り組んでいきたい内容 （すでに取組んでいることも含む）
18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	馴染みの関係の重要性を認識し職員交代を行なう場合は十分検討している。又、所長が職員と話す機会を、定期的に設けて、悩みや個人的な相談を打ち明けることによって、離職までいたらないように努めている。		
5. 人材の育成と支援				
19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員の質の確保、向上に向けた育成の必要性を認識しており、職員の立場に応じて法人内研修として新入社員研修、計画作成者研修を実施している。又、事業所内外の研修に参加した職員は研修報告書を作成し、職員会議で発表してもらい、知識・技術の共有化を図っている。		
20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	関連の事業所職員が集まり学習会を設け、意見交換できるように進めている。		
21	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	各事業所の構造上の違いもあり、広さが十分でない所もあるが、職員が一息入れられる場所・時間を確保できるように努めている。又、全職員に役員、人事部長、介護部長の連絡先を伝えてあり、職員のストレスの軽減・背景を理解する取り組みを行なっている。		
22	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	労働基準法や労働安全衛生法に則って、労働条件を整え、健康診断を実施している。又、運営者は事業所でおきている状況変化の把握に努めており、事業所や職員が向上心を持って働けるように、事業所、職員評価を行なっている。		

項　　目		取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	○印 （取組んでいきたい項目）	取り組んでいきたい内容 （すでに取組んでいることも含む）
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応(小規模多機能居宅介護事業所のみ記入)				
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている（小規模多機能居宅介護）			
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている（小規模多機能居宅介護）			
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている(小規模多機能居宅介護)			
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している(小規模多機能居宅介護)			
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	料理や裁縫など利用者の生活歴から教えていただく機会を持っており、座布団カバー作りや料理など一緒に行なっている。		

項　　目		取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	○印 （取組んでいきたい項目）	取り組んでいきたい内容 （すでに取組んでいることも含む）
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	ホーム行事にご家族に参加して頂いたり、利用者の健康問題や悩んでいることについて話し合いをもつなどしている。		
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	入居時ご家族は疲れていることが多く、傾聴に努め、まずはご家族が十分な休養をとることを勧め、その後の家族関係の構築に努めている。		
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	昔職場の同僚だった方や趣味のサークルの方々などおいで下さり、常に交流されている。		
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	利用者同士が思いやりをもって、心配しあったりするなどホーム内がひとつの家族として成り立っている。		
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	退去された方のご家族がお茶飲みにいらしたり、自宅でとられた野菜をホームへ持参して下さったりしている。		

項　　目		取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	○印 （取組んでいきたい項目）	取り組んでいきたい内容 （すでに取組んでいることも含む）
Ⅲ．その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1．一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者の過去歴や趣味、生活歴をふまえて情報の共有をしている。利用者から思いを素直に表現できるような雰囲気作りに努めている。	○	利用者本位を念頭に、これからも取り組んでいきたい。
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時自宅へ伺い、現状の暮らしぶりや趣味、人生の歩み等伺って把握に努めている。担当ケアマネージャーからも情報を頂いている。		
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	日に１度はバイタルチェックを行い、健康状態の把握に努め通院時には主治医との面談を行い、健康維持に努めている。又、利用者の気持ちを第一にホーム内では過ごしていただいている。		
2．本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映した介護計画を作成している	月に１回カンファレンスを行い、意見を出し合うと共にご家族来訪時に意見や希望を聞くなどして、介護計画に反映している。		
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	入院等で大きな変化が生じた場合は、ご家族と話し合うと共にスタッフの意見をふまえて介護計画の見直しを行なっている。		

項　　目		取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	○印 （取組んでいきたい項目）	取り組んでいきたい内容 （すでに取組んでいることも含む）
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別に生活チェック表（食事量・排泄・水分・バイタル）、ケース記録を記入し勤務時間前には必ず申し送りを行ない、職員間の共有を図っている。又、介護計画の見直しに反映できるように記入している。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援（小規模多機能居宅介護事業所のみ記入）				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている（小規模多機能居宅介護）			
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	民生委員の方にはボランティアとして編み物を利用者に教えて頂いたり、消防署には避難訓練や救急救命講習の指導をして頂いている。		
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	介護保険以外のサービスを利用している方が今の所いらっしゃらないので、今後は活用できるよに努めていく。	○	必要に応じて適切に介護保険以外のサービスが受けられるよう連携を図って行きたい。
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	地域包括支援センターを通じて他事業所や地域環境の情報交換や協力関係を築いている。		

項　目		取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	○印 （取組んでいきたい項目）	取り組んでいきたい内容 （すでに取組んでいることも含む）
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	馴染みの関係を継続するためにも、できるだけかかりつけ医で診察できるように支援している。		
44	○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	ほとんどの利用者が精神科、神経内科の専門医を主治医としており常にスタッフは相談、連絡を密にしている。		
45				
46	○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	入院の際は可能な限り毎日スタッフがお見舞いに行き、病院関係者と連携が取れるようにしている。又、退院時には主治医、ＳＷからアドバイスを必ず受けるようにしている。		
47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	常に主治医との面談や連絡を行なっているので、重度化した場合は家族と一体となって利用者支援の方法について主治医と相談しスタッフ間で情報の共有を行っている。		
48	○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	重度、終末期が近いと判断された場合は、起こりえる事態についてホームのできること・できないことを見極め「本人にとって一番望ましいあり方」について話し合う機会をもっている。		

項　目		取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	○印 （取組んでいきたい項目）	取り組んでいきたい内容 （すでに取組んでいることも含む）
49	○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	入居時、本人やご家族に説明し馴染みの物を出来るだけ持ち込んでいただき、自宅に近い部屋作りを行なっている。		
Ⅳ．その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 **1．その人らしい暮らしの支援** （1）一人ひとりの尊重				
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	入居時に「個人情報使用に関わる同意書」を説明して同意をもらい関わり方に注意をはらっている。又、職員も個人情報に関わる誓約書を入職時提出しており漏洩防止に努めている。		
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	些細な事でも利用者に選んでもらう場面を作り、自己決定すること、希望を表すことができる声掛けを行なっている。		
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的な１日の流れはあるが、利用者の気持ちを大事にし、本人のペースで何事もすすめられるように支援している。		
（2）その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援（53は、認知症対応型共同生活介護事業所のみ記入）				
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容･美容は本人の望む店に行けるように努めている（認知症対応型共同生活介護）	昔から馴染みの理美容院に行ったり、行事や外出の際はおしゃれを楽しんで頂けるように支援している。		

項　目		取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	○印 （取組んでいきたい項目）	取り組んでいきたい内容 （すでに取組んでいることも含む）
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者と準備の割り振りをしたり、畑に食材を採りに行ったりし利用者の力を発揮できる場面作りとしている。		
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	本人の好むおやつや飲み物を出来る範囲で、日常的に楽しめるよう支援している。		
56	○気持よい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	トイレ誘導を定期的に行い、排泄の失敗を減らし、気持ち良く過ごして頂いている。サインを見逃さずトイレ誘導している。		
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	職員が一方的に決めず利用者のその日の希望と体調を確認してから入浴して頂いている。		
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	利用者の生活習慣に合わせて、昼寝をしていた方にはして頂き、早く寝るのが嫌な方はスタッフと話しをして安心されてから休んでいただいている。		
（3）その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援（認知症対応型共同生活介護事業所のみ記入）				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている（認知症対応型共同生活介護）	利用者に合わせた役割をみつけ仕事を頼み、日々の楽しみを持って頂いている。職員は利用者に感謝の言葉を伝えるようにしている。		

項　目		取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	○印 （取組んでいきたい項目）	取り組んでいきたい内容 （すでに取組んでいることも含む）
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している（認知症対応型共同生活介護）	家族よりお金を預かり事業所で管理している利用者でも、家族同意のもと小額を所持している利用者もいらっしゃる。		
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している（認知症対応型共同生活介護）	ホーム内だけで過ごされずに、その日の利用者の希望を聞きながら散歩されたり、買い物に出掛けて外出を楽しまれている。		
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している(認知症対応型共同生活介護)	季節に合わせての花見や本人の希望による外出を行なっている。		
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている（認知症対応型共同生活介護）	それぞれに応じた方法で、外部との交流ができるように支援している。		
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している（認知症対応型共同生活介護）	特に面会時間は設けていない。自由に面会に来て頂き、ゆっくりと話しをして頂く為に居室に椅子を運び、お茶をだしたりし居心地よい環境作りを心がけている。		
（4）安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	全ての職員が正しく認識するために、勉強会やミーティング等で正しい理解を図り、身体拘束は絶対に行なわない、ケアの実践に取り組んでいる。		

項　目		取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	○印 （取組んでいきたい項目）	取り組んでいきたい内容 （すでに取組んでいることも含む）
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	外へ出かけていきそうな時は止めるのではなく、さりげなく声をかけ話をしたり、一緒に散歩に出かけるなどの対応をしている。法人としてコンプライアンスルールとして定めている。		
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	日中は必ず１人は、フロアにいて利用者全員の所在確認か出来るようにしている。また、職員同士声をかけ合い利用者と共に行動し、状況報告をし合っている。		
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	利用者の希望、状態に合わせてハサミ、針などを使用して頂き、使用後は道具の本数確認を行なっている。又、自己管理可能な方は、管理して頂いている。		
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	危険や気づいた事は職員で話し合い未然に防ぐ取り組みを実施している。事故が発生した時は事故報告書を作成し発生原因、今後の予防について話し合い再発防止に努めている。		
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	消防署の協力を得て、救急手当てや蘇生術の研修を実施し職員が対応できるようにしている。		
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	運営推進会議を通じて地域の協力を呼びかけている。消防署指導のもと避難訓練や消火器の使い方など訓練を定期的に行なっている。		

項　目		取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	○印 （取組んでいきたい項目）	取り組んでいきたい内容 （すでに取組んでいることも含む）
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にした対応策を話し合っている	利用者一人ひとりに予測されるリスクを家族と話し合い、抑圧感のない暮らしが行動障害を軽減している事を説明し理解を得られるように努めている。		
（5）その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	体調変化や異変の発見に努め、変化等があった場合は管理者に報告している。又、職員間でも共有し状況に応じて医療受診につなげている。		
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬記録にて内容を把握している。薬の変更においては、随時申し送り、確認している。記録はわかりやすく記入し、家族にも情報提供している。		
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	便秘気味の方には水分を多めに飲んでもらったり、食材を工夫し予防に取り組んでいる。負担にならない程度の運動を心がけている。		
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎食後、声掛けを行ない一人ひとりの力量に応じて、見守り、介助を行なっている。夜間は必要な方に義歯の消毒を行なっている。		
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事の摂取量や水分摂取量はチェック表に記録し、職員が情報を共有できるようにしてある。水分摂取不足と思われる利用者には、とろみをつけたりし工夫しながら対応している。		

項　目		取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	○印 （取組んでいきたい項目）	取り組んでいきたい内容 （すでに取組んでいることも含む）
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している（インフルエンザ、疥癬、肝炎、ＭＲＳＡ、ノロウイルス等）	感染症に関するマニュアルがあり全職員周知している。利用者は家族の同意の上インフルエンザの予防接種を受けており、職員も予防接種を受けている。		
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	台所調理用器具などの清潔や衛生管理方法について取り決めがあり、実施している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり （1）居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	玄関先にベンチを置いたり、プランタを置き明るい雰囲気を作りくつろげるようにしている。		
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホーム内に季節の花を飾り季節感を感じて頂けるように配慮している。		
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	フロアのテーブルや椅子は、その時々の利用者の状況に応じて配置し、仲の良い利用者同士で過ごせるようにしている。新聞を読んだり、一人で過ごしたい時はソファが活用されている。		

項　　目		取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	○印 （取組んでいきたい項目）	取り組んでいきたい内容 （すでに取組んでいることも含む）
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者の使い慣れたなじみのものを置いておくなど、本人や家族と相談しながら個別に応じた工夫をしている。		
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のよどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	天気や外気温を考慮して空気の入れ替えや、温度調節について職員は常に意識して行なっている。		
（2）本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	身体機能の変化に応じ、トイレの手すりを使いやすい位置につけたり利用者の活動性を維持するために必要に応じて車椅子を利用する工夫をしている。		
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	混乱を招くような環境の原因は速やかに補修し、利用者の状態に合わせて目印を表示している。		
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	畑を確保しており利用者が日常的に楽しめるようになっている。又、玄関先のベンチでのんびり過ごせる環境を作っている。		

（　　部分は外部評価との共通評価項目です　）

Ｖ．サービスの成果に関する項目

項目		取り組みの成果（該当する箇所を○印で囲むこと）		
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	①ほぼ全ての利用者の ②利用者の２/３くらいの ③利用者の１/３くらいの ④ほとんど掴んでいない	⑤その他（　　）
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある ②数日に１回程度ある ③たまにある ④ほとんどない	⑤その他（　　）
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の２/３くらいが ③利用者の１/３くらいが ④ほとんどいない	⑤その他（　　）
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の２/３くらいが ③利用者の１/３くらいが ④ほとんどいない	⑤その他（　　）
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の２/３くらいが ③利用者の１/３くらいが ④ほとんどいない	⑤その他（希望があれば出掛けている）
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の２/３くらいが ③利用者の１/３くらいが ④ほとんどいない	⑤その他（　　）
94	利用者は、その時々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の２/３くらいが ③利用者の１/３くらいが ④ほとんどいない	⑤その他（　　）
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている	○	①ほぼ全ての家族と ②家族の２/３くらいと ③家族の１/３くらいと ④ほとんどできていない	⑤その他（　　）
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどない	⑤その他（　　）

項　目		取り組みの成果 （該当する箇所を○印で囲むこと）	
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くいない ⑤その他（　　）
98	職員は、活き活きと働けている	○	①ほぼ全ての職員が ②職員の２/３くらいが ③職員の１/３くらいが ④ほとんどいない ⑤その他（　　）
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の２/３くらいが ③利用者の１/３くらいが ④ほとんどいない ⑤その他（　　）
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が ②家族等の２/３くらいが ③家族等の１/３くらいが ④ほとんどできていない ⑤その他（　　）

【特に力を入れている点・アピールしたい点】
（この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。）

・職員は日々、利用者本位のケアを考え、その人らしい暮らしを続ける為の支援に努めています。
・ご家族、地域の方とのつながりを大切にし、家族交流、地域交流に積極的に取り組んでいます。
・寄り添い、共に歩むをホームの基本方針とし、利用者が安全・安心して暮らして頂けるように心がけています。

自己評価票

地域密着型サービス自己評価項目

（評価項目の構成）

Ⅰ.理念に基づく運営
1. 理念の共有
2. 地域との支えあい
3. 理念を実践するための制度の理解と活用
4. 理念を実践するための体制
5. 人材の育成と支援

Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援

Ⅲ.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント
1. 一人ひとりの把握
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し
3. 多機能性を活かした柔軟な支援
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働

Ⅳ.その人らしい暮らしを続けるための日々の支援
1. その人らしい暮らしの支援
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり

Ⅴ. サービスの成果に関する項目

【記入方法】
- 複数のユニットを持つ認知症対応型共同生活介護事業所の場合、各ユニットごとに、管理者が介護職員と協議の上記入してください。
- 次の項目は、小規模多機能居宅介護事業所のみ記入してください。
  - 項目番号23　〇初期に築く本人との信頼関係
  - 項目番号24　〇初期に築く家族との信頼関係
  - 項目番号25　〇初期対応の見極めと支援
  - 項目番号26　〇馴染みながらのサービス利用
  - 項目番号39　〇事業所の多機能性を活かした支援
- 次の項目は、認知症対応型共同生活介護事業所のみ記入してください。
  - 項目番号53　〇身だしなみやおしゃれの支援
  - 項目番号59　〇役割、楽しみごと、気晴らしの支援
  - 項目番号60　〇お金の所持や使うことの支援
  - 項目番号61　〇日常的な外出支援
  - 項目番号62　〇普段行けない場所への外出支援
  - 項目番号63　〇電話や手紙の支援
  - 項目番号64　〇家族や馴染みの人の訪問

【用語について】
- 管理者＝指定事業者としての届出上の管理者とする。「管理者」には、管理者不在の場合にこれを補佐する者を含む。
- 職員＝「職員」には、管理者及び非常勤職員を含む。

事業所名	グループホーム　天神
（ユニット名）	2階
記入者（管理者） 氏　名	藤戸　末子
評価完了日	平成19年　7月20日

自己評価票

項　　目		取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	○印 （取組んでいきたい項目）	取り組んでいきたい内容 （すでに取組んでいることも含む）
Ⅰ．理念に基づく運営				
1．理念と共有				
1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	ホームの理念は法人の理念を踏まえてスタッフ全員で作り上げたが、介護保険改正にともない地域密着型サービスとしての理念の内容を目指したホーム独自の理念を現在スタッフ全員で検討中である。	○	ホームの地域における意義を踏まえつつ、新しい理念を作りあげる。
2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	スタッフ会議や申し送りの時間を利用し、理念の実践に向けての話し合いが行なわれている。	○	新しく加わったスタッフにも理念を深く理解してもらい、職員全員で利用者本位のケアに向けて取り組んでいきたい。
3	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にした理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる	運営推進会議や「天神だより」でホームを知っていただくことに努めているが、理念の構築は検討課題となっている。	○	早期に地域密着型サービスの基本方針に添った理念を構築し、地域にわかりやすく伝えていきたい。
2．地域との支えあい				
4	○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	地域のボランティアの方々が毎月おいで下さり、地域の方と利用者が共に日舞を鑑賞したり、避難訓練に参加して頂いている。又、散歩などで挨拶を交わしたり、ホーム畑の作業時に気軽に声を掛けて頂いている。		
5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会にホーム便りの回覧をお願いしている。スタッフは地域活動に参加している。		

項　　目		取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	○印 （取組んでいきたい項目）	取り組んでいきたい内容 （すでに取組んでいることも含む）
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	「天神だより」を通して認知症の様々な周辺症状への理解を深めて頂けるように広報活動に努めている。又、地域のボランティアの方々を通して、地域の高齢者との親交を深めている。	○	地域の高齢者の暮らしに役立つ事がないか、さらに検討していきたい。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	スタッフ会議で自己評価やサービス評価について話し合いが持たれている。ホームの改善項目については、所長を中心に積極的に取り組んでいる。		
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議で取り上げられた検討事項などは、本社に報告したり、すぐに改善できる内容については直ちに改善し、メンバーに報告している。		
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	福祉事務所、生活環境課、国民保健課等、関連部署との連携を常に心がけ実施している。		
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	所長は権利擁護に関する制度に対する理解を十分に持ち、スタッフに資料を渡したり、学ぶ機会を持つようにしている。	○	継続的に学習の機会を確保し、職員全員が理解を深め、活用できるように支援体制を整えていきたい。
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	法人のマニュアルで虐待防止について学び、さらにスタッフ会議や申し送り時間に話し合い、虐待防止に取り組んでいる。		

項　　目		取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	○印 （取組んでいきたい項目）	取り組んでいきたい内容 （すでに取組んでいることも含む）
4. 理念を実践するための体制				
12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居時、解約時には十分時間をとり丁寧に説明を行なっている。又、疑問点に対しても納得して頂けるように説明している。		
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議に利用者代表の方が参加しており、毎回意見や要望を述べていただき、それらの意見が運営に反映されている。		
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	ご家族の来訪時に利用者の普段の暮らしぶりをお伝えしている。又、月１回ご家族へ近況報告と現金出納帳、通院記録をコピーして送付している。		
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議でご家族代表の方に、十分意見を述べて頂けるように働きかけている。又、契約時にホーム外にも苦情相談窓口やホーム内に意見箱があることを説明している。ご家族来訪時にはできるだけ所長が話し合う機会をもてるように努めている。		
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月１回のスタッフ会議時にスタッフ全員が意見を述べる機会を設けている。又、折りに触れてスタッフの提案は運営に反映させている。		
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	臨機応変の対応は主任を夜勤に組み込まず、対応に努めている。		

項　　目		取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	○印 （取組んでいきたい項目）	取り組んでいきたい内容 （すでに取組んでいることも含む）
18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	馴染みの関係の重要性を認識し職員交代を行なう場合は十分検討している。又、所長が職員と話す機会を、定期的に設けて、悩みや個人的な相談を打ち明けることによって、離職までいたらないように努めている。		
5. 人材の育成と支援				
19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員の質の確保、向上に向けた育成の必要性を認識しており、職員の立場に応じて法人内研修として新入社員研修、計画作成者研修を実施している。又、事業所内外の研修に参加した職員は研修報告書を作成し、職員会議で発表してもらい、知識・技術の共有化を図っている。		
20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	関連の事業所職員が集まり学習会を設け、意見交換できるように進めている。		
21	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	各事業所の構造上の違いもあり、広さが十分でない所もあるが、職員が一息入れられる場所・時間を確保できるように努めている。又、全職員に役員、人事部長、介護部長の連絡先を伝えてあり、職員のストレスの軽減・背景を理解する取り組みを行なっている。		
22	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	労働基準法や労働安全衛生法に則って、労働条件を整え、健康診断を実施している。又、運営者は事業所でおきている状況変化の把握に努めており、事業所や職員が向上心を持って働けるように、事業所、職員評価を行なっている。		

項　　目		取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	○印 （取組んでいきたい項目）	取り組んでいきたい内容 （すでに取組んでいることも含む）
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応(小規模多機能居宅介護事業所のみ記入)				
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている（小規模多機能居宅介護）			
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている（小規模多機能居宅介護）			
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている(小規模多機能居宅介護)			
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している(小規模多機能居宅介護)			
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者と職員が一緒に調理や掃除をする事で、利用者からいろいろと教えていただき、お互い支えあう関係を築いている。		

項　　目		取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	○印 （取組んでいきたい項目）	取り組んでいきたい内容 （すでに取組んでいることも含む）
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	ご家族に現状を報告しホームに泊まって頂くなど、ご家族はホームケアの状況を認識しスタッフと一緒に利用者を支えていく関係を築いている。		
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	ホームに入所された事で、ご家族との関係が途切れないように、利用者の気持ちを理解した支援を行なっている。		
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族や友人が訪ねてきやすい雰囲気である事を、常に意識して努めている。又、電話や手紙の利用を利用者の状態に合わせて支援している。		
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	仲の良い利用者同士が過ごせる配慮をしたり、利用者同士のトラブルについても必要に応じて距離をおいてもらうなど双方の関係にひびがはいらないように対応している。		
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	退去された方のご家族がお茶飲みにいらしたり、自宅でとられた野菜をホームへ持参して下さったりしている。		

項　　目		取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	○印 （取組んでいきたい項目）	取り組んでいきたい内容 （すでに取組んでいることも含む）
Ⅲ．その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1．一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者の過去歴や趣味、生活歴をふまえて情報の共有をしている。利用者から思いを素直に表現できるような雰囲気作りに努めている。		
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時自宅へ伺い、現状の暮らしぶりや趣味、人生の歩み等伺って把握に努めている。担当ケアマネージャーからも情報を頂いている。		
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	日に１度はバイタルチェックを行い、健康状態の把握に努め通院時には主治医との面談を行い、健康維持に努めている。又、利用者の気持ちを第一にホーム内では過ごしていただいている。		
2．本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映した介護計画を作成している	月に１回カンファレンスを行い、意見を出し合うと共にご家族来訪時に意見や希望を聞くなどして、介護計画に反映している。		
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	入院等で大きな変化が生じた場合は、ご家族と話し合うと共にスタッフの意見をふまえて介護計画の見直しを行なっている。		

項　目		取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	○印 （取組んでいきたい項目）	取り組んでいきたい内容 （すでに取組んでいることも含む）
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別に生活チェック表（食事量・排泄・水分・バイタル）、ケース記録を記入し勤務時間前には必ず申し送りを行ない、職員間の共有を図っている。又、介護計画の見直しに反映できるように記入している。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援（小規模多機能居宅介護事業所のみ記入）				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている（小規模多機能居宅介護）			
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	民生委員の方にはボランティアとして編み物を利用者に教えて頂いたり、消防署には避難訓練や救急救命講習の指導をして頂いている。		
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	介護保険以外のサービスを利用している方が今の所いらっしゃらないので、今後は活用できるよに努めていく。	○	必要に応じて適切に介護保険以外のサービスが受けられるよう連携を図って行きたい。
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	地域包括支援センターを通じて他事業所や地域環境の情報交換や協力関係を築いている。		

項　目		取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	○印 （取組んでいきたい項目）	取り組んでいきたい内容 （すでに取組んでいることも含む）
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	馴染みの関係を継続するためにも、できるだけかかりつけ医で診察できるように支援している。		
44	○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	ほとんどの利用者が精神科、神経内科の専門医を主治医としており常にスタッフは相談、連絡を密にしている。		
45				
46	○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	入院の際は可能な限り毎日スタッフがお見舞いに行き、病院関係者と連携が取れるようにしている。又、退院時には主治医、ＳＷからアドバイスを必ず受けるようにしている。		
47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	常に主治医との面談や連絡を行なっているので、重度化した場合は家族と一体となって利用者支援の方法について主治医と相談しスタッフ間で情報の共有を行っている。		
48	○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	重度、終末期が近いと判断された場合は、起こりえる事態についてホームのできること・できないことを見極め「本人にとって一番望ましいあり方」について話し合う機会をもっている。		

項　目		取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	○印 （取組んでいきたい項目）	取り組んでいきたい内容 （すでに取組んでいることも含む）
49	○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	入居時、本人やご家族に説明し馴染みの物を出来るだけ持ち込んでいただき、自宅に近い部屋作りを行なっている。		
Ⅳ．その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 **1．その人らしい暮らしの支援** （1）一人ひとりの尊重				
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	入居時に「個人情報使用に関わる同意書」を説明して同意をもらい関わり方に注意をはらっている。又、職員も個人情報に関わる誓約書を入職時提出しており漏洩防止に努めている。		
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	些細な事でも利用者に選んでもらう場面を作り、自己決定すること、希望を表すことができる声掛けを行なっている。		
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的な１日の流れはあるが、利用者の気持ちを大事にし、本人のペースで何事もすすめられるように支援している。		
（2）その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援（53は、認知症対応型共同生活介護事業所のみ記入）				
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容･美容は本人の望む店に行けるように努めている（認知症対応型共同生活介護）	昔から馴染みの理美容院に行ったり、行事や外出の際はおしゃれを楽しんでもらえるように支援している。		

項　目		取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	○印 （取組んでいきたい項目）	取り組んでいきたい内容 （すでに取組んでいることも含む）
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者と準備の割り振りをしたり、畑に食材を採りに行ったりし利用者の力を発揮できる場面作りとしている。		
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	本人の好むおやつや飲み物を出来る範囲で、日常的に楽しめるよう支援している。		
56	○気持よい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	トイレ誘導を定期的に行い、排泄の失敗を減らし、気持ち良く過ごして頂いている。サインを見逃さずトイレ誘導している。		
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	職員が一方的に決めず利用者のその日の希望と体調を確認してから入浴して頂いている。		
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	利用者の生活習慣に合わせて、昼寝をしていた方にはして頂き、早く寝るのが嫌な方はスタッフと話しをして安心されてから休んでいただいている。		
（3）その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援（認知症対応型共同生活介護事業所のみ記入）				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている（認知症対応型共同生活介護）	利用者に合わせた役割をみつけ仕事を頼み、日々の楽しみを持って頂いている。職員は利用者に感謝の言葉を伝えるようにしている。		

項　目		取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	○印 （取組んでいきたい項目）	取り組んでいきたい内容 （すでに取組んでいることも含む）
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している（認知症対応型共同生活介護）	ご家族に相談し自己管理が可能な利用者には財布を持って頂いている。又、買い物にはスタッフが同行し利用者の状態に合わせて、支払えるように支援している。		
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している（認知症対応型共同生活介護）	ホーム内だけで過ごされずに、その日の利用者の希望を聞きながら散歩されたり、雨の場合にはドライブなどを楽しんで頂いている。		
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している(認知症対応型共同生活介護)	ご家族と相談し墓参りや面会など行きたい所に行けるように支援している。		
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている（認知症対応型共同生活介護）	利用者それぞれに応じた方法で、電話や手紙など外部との交流ができるように支援している。		
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している（認知症対応型共同生活介護）	特に面会時間は設けていない。自由に面会に来て頂き、ゆっくりと話しをして頂く為に居室に椅子を運び、お茶をだしたりし居心地よい環境作りを心がけている。又、ご家族が宿泊できる準備もしている。		
（4）安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束によって利用者が受ける身体的弊害、精神的弊害について理解し、拘束しないケアを行なっている。		

項　目		取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	○印 （取組んでいきたい項目）	取り組んでいきたい内容 （すでに取組んでいることも含む）
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	外へ出かけていきそうな時は止めるのではなく、さりげなく声をかけ話をしたり、一緒に散歩に出かけるなどの対応をし自由で安全な暮らしを支援している。		
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	日中は必ず１人は、フロアにいて利用者全員の所在確認か出来るようにしている。また、職員同士声をかけ合い利用者と共に行動し、状況報告をし合っている。		
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	利用者の状態に合わせて、危険物を居室より預かり、保管、管理している。		
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	ホーム内に安全衛生委員会があり、ホーム全体の事故防止に取り組んでいる。		
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	消防署の協力を得て、救急手当てや蘇生術の研修を実施し職員が対応できるようにしている。		
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	運営推進会議を通じて地域の協力を呼びかけている。消防署指導のもと避難訓練や消火器の使い方など訓練を定期的に行なっている。		

項　目		取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	○印 （取組んでいきたい項目）	取り組んでいきたい内容 （すでに取組んでいることも含む）
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にした対応策を話し合っている	利用者一人ひとりに予測されるリスクを家族と話し合い、抑圧感のない暮らしが行動障害を軽減している事を説明し理解を得られるように努めている。		
（5）その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	バイタル測定以外でも利用者の体調に変化がみられた場合は、所長に報告し医療機関受診につなげている。経過状況も個別に記録している。		
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	スタッフは利用者個々の薬の内容を周知しており、正しく服用できるように支援している。薬が変更になった場合は、全職員が内容を周知できるように業務日誌に記録している。		
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	排便記録票を利用して利用者の状態を把握している。又、予防のために水分や食べ物でも工夫している。		
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎食後、声掛けを行ない一人ひとりの力量に応じて、見守り、介助を行なっている。夜間は必要な方に義歯の消毒を行なっている。		
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者に合わせた主食の量を測り栄養管理している。栄養バランスが良い食事になるように、管理栄養士にメニューを依頼している。		

項　目		取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	○印 （取組んでいきたい項目）	取り組んでいきたい内容 （すでに取組んでいることも含む）
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している（インフルエンザ、疥癬、肝炎、ＭＲＳＡ、ノロウイルス等）	感染症に関するマニュアルがあり全職員周知している。利用者は家族の同意の上インフルエンザの予防接種を受けており、職員も予防接種を受けている。		
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	安全な食材での調理をする為、買い置きはせず出来るだけ新鮮な食材を使用している。食器乾燥機を使用し食器や調理器具の衛生管理をしている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり （1）居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	玄関先にベンチを置いたり、プランタを置き明るい雰囲気を作りくつろげるようにしている。		
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間では大きな声やテレビの音量など利用者にとって不快でないように注意している。壁に季節感を持たせる飾りなど居心地よく過ごせるように注意している。		
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	フロアのテーブルや椅子は、その時々の利用者の状況に応じて配置し、仲の良い利用者同士で過ごせるようにしている。新聞を読んだり、一人で過ごしたい時はソファが活用されている。		

項　　目		取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	○印 （取組んでいきたい項目）	取り組んでいきたい内容 （すでに取組んでいることも含む）
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	仏壇、家具などこれまで使っていた物を持ち込み、利用者が居心地良く過ごして頂いている。 又、新しく入居された方のご家族には、馴染みの物を持ってきてもらえるように支援している。		
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のよどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	空気の入れ替えや、温度調節について職員は常に意識して行なっている。また、各居室に温湿計が置かれつねに居室の温度に配慮している。		
（2）本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレ、風呂場、玄関等に利用者の状態に合わせた手摺が設置されている。トイレ、風呂場での介助は利用者の身体状態に合わせた支援をしている。		
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	居室の入口には本人がわかる目印をつけ、混乱を招くような環境の原因は速やかに補修し、利用者の状態に合わせて工夫している。		
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	玄関前で日向ぼっこが出来たり、花の手入れや草取りが安全に出来る環境が整っている。玄関前のベンチはいつでも利用者が、自由にくつろげる場となっている。		

（　　部分は外部評価との共通評価項目です　）

Ｖ．サービスの成果に関する項目

項目		取り組みの成果（該当する箇所を○印で囲むこと）		
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	①ほぼ全ての利用者の ②利用者の２/３くらいの ③利用者の１/３くらいの ④ほとんど掴んでいない	⑤その他（　　）
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある ②数日に１回程度ある ③たまにある ④ほとんどない	⑤その他（　　）
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の２/３くらいが ③利用者の１/３くらいが ④ほとんどいない	⑤その他（　　）
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の２/３くらいが ③利用者の１/３くらいが ④ほとんどいない	⑤その他（　　）
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の２/３くらいが ③利用者の１/３くらいが ④ほとんどいない	⑤その他（　　）
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の２/３くらいが ③利用者の１/３くらいが ④ほとんどいない	⑤その他（　　）
94	利用者は、その時々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の２/３くらいが ③利用者の１/３くらいが ④ほとんどいない	⑤その他（　　）
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている	○	①ほぼ全ての家族と ②家族の２/３くらいと ③家族の１/３くらいと ④ほとんどできていない	⑤その他（　　）
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどない	⑤その他（　　）

項　目		取り組みの成果 （該当する箇所を○印で囲むこと）	
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くいない ⑤その他（　　）
98	職員は、活き活きと働けている	○	①ほぼ全ての職員が ②職員の２/３くらいが ③職員の１/３くらいが ④ほとんどいない ⑤その他（　　）
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の２/３くらいが ③利用者の１/３くらいが ④ほとんどいない ⑤その他（　　）
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が ②家族等の２/３くらいが ③家族等の１/３くらいが ④ほとんどできていない ⑤その他（　　）

【特に力を入れている点・アピールしたい点】
（この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。）

・職員は日々、利用者本位のケアを考え、その人らしい暮らしを続ける為の支援に努めています。
・ご家族、地域の方とのつながりを大切にし、家族交流、地域交流に積極的に取り組んでいます。
・寄り添い、共に歩むをホームの基本方針とし、利用者が安全・安心して暮らして頂けるように心がけています。